

# 研究結果報告書

## 室町時代の日本語音韻研究

所属：華南農業大学 外国語学院 日本語学科

役職：講師

氏名：馬 之濤

本研究の目的は近代の東西言語文化交流という背景のもとで生まれた、外国人の手によって記録された言語資料を利用し、言語学的な視座から日本語音韻史特に中世、近代における諸問題を明らかにし、資料間の共通性、普遍性を見出すことである。例えば五百年ほど前の中国人およびその後のポルトガル人やイギリス人が記録した記述に日本語が特殊な表現で書かれていることや、あるいはこういった外国人が言及したことをもとに、当時の日本語を考察することができるということである。

研究助成期間においてインターネットを通して日本の書籍や資料を手に入れ、資料の収集整理、研究することができた。収集した資料をもとに研究を続け、その成果を中日対比語言研究会（北京）と世界漢語教育史研究学会（上海）で発表し、中国及び日本の専門家との交流や意見交換も行った。

研究を通じて過去に取り上げられていないイギリス人の書簡にある記述を発見した。断片的なものではあるが、日本語の子音に対する記述に対するこれまでの他資料の研究成果を合わせて考えれば、日本語音韻史におけるハ行音の音変化の問題を新たに解釈することも可能になる。このことについて第九回中日対比語言研究会（北京）で発表した。ほかにもアメリカ人が記録した中国語資料についても研究を行い、寧波方言の声調が十九世紀の「西洋人資料」に表記されていたことを発見し、第九回世界漢語教育史研究学会（上海）で発表した。

本研究は言語資料の使用を中心に行ってきた。ある言語の音声を他言語の語あるいは表記で表すこと、すなわち音写がその当時の言語の様子を反映しているからである。ただし、いったんこのような音写が長期化、習慣化されると、音写された語が他言語に溶け込み、その一部になることがある。この過程に起こる諸現象は実際には意識的要因や言語自身の音韻制約など、様々な影響を受けながら起こる。このことも研究に値するところであり、今後の課題とする。

### 研究成果の公表について

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

1 『関于室町時期ハ行音的音変』第九回中日対比語言研究会、2017年8月19日-20日、北京：北方工業大学

2 「『寧波方言字語彙解』反映的19世紀寧波方言連読変調」漢語国際化視野下的漢語全球教育史国際學術研討会暨第九回世界漢語教育史研究学会、2017年10月20-23日、上海：華東師範大学

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

「中近世におけるハ行音の音変化について」馬之濤（掲載誌掲載時期未定）

「『寧波方言字語彙解』反映的19世紀寧波方言連読変調」馬之濤（掲載誌掲載時期未定）